

第2学年 学級活動學習指導案

1 単元名 「イジリ見逃し〇」支持的風土の醸成 あたたかで思いやりあふれる〇〇中学校
～特別活動・道徳授業を連動させた指導を通して～」

2 単元の目標

生徒会から問題提起された「イジリ見逃し〇」の視点から学級の問題を見出して共有し、解決するための話し合いを通して、自分たちの手で学級をよりよい姿にしていくことができる。

3 単元の評価規準

| よりよい生活を築くための知識・技能 | 集団や社会形成者としての思考・判断・表現 | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 |
|--|--|--|
| ・話し合いの過程を通して、「考えを共有して物事を決める時の見方・考え方」が増えたり強化したりできる。 (振り返りアンケートで評価) | ・話し合いを通して、問題解決のための具体的な方策について互いの意見を多面的に吟味し、合意形成を図ることができる。 (話し合いの中での様相や振り返りアンケートの記述で評価) | ・学級の一員として課題意識をもって話し合いに進んで参画し、建設的に意見を述べることができる。 (話し合いの中での様相や振り返りアンケートの記述で評価) |

4 研究主題と単元設定の理由

市中教研学級経営部の研究主題は「よりよい人間関係を育む学年・学級経営の工夫」である。生徒および学級集団の実態を見ると、運動会などの行事を通して学級や学年の団結力も高まってきた一方、行事がひと段落したことでからかいが混じったかかわり方が見られる。生徒たちにとって悪意のあるものではなく、「このくらいいいだろう」という気持ちで遊び半分に行っている行為(イジリ)であるが、根底に人権意識と支持的風土の醸成が十分でなく、いじめを生む人間関係が見え隠れする。そこで、こういった問題意識を教師側が伝えるのではなく、生徒側から発信することで、自分たちの課題を自分たちで解決しようとする意識が芽生えるのではないかと考えた。

5 単元の指導計画（全5時間）

- 学級における集団活動や自律的な生活を送ることの意義を理解し、そのために必要となることを理解し身に付けるようにする。
- 学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようとする。
- 学級における集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

単元構想のポイント

- 【学級活動（1） 学級や学校における生活づくりへの参画】にかかる資質・能力を評価規準（評価観点）として明確に設定する。
- 学級の問題を出し合い焦点化する、個人の意見を表明し合うとともに比較し合い整理する、解決方法を集団として合意形成したり個人として意思決定したりする際に、学習者用タブレット端末を効果的に活用する。
- 道徳の時間、生徒会活動と連動させて動機付けを図る。

6 本時の計画

（1）本時のねらい（◎目指す生徒の姿）

前時を踏まえ、「イジリ見逃し〇」の視点から学級の問題を解決するための具体的な方策について話し合いを通して合意形成を図り、自分たちの手で「思いやり宣言」を決めることができる。

◎「今の学級にとって」や「これから学級のためには」という視点から、自分と級友たちとの目標が明確になる。

◎級友の考えを共有して、物事を決めるときの見方や考え方、方策が増える。



授業のポイント

○何のために話し合い、決めるのか（【目的意識】を十分にもたせる）

○話し合いで、何が分かったのか、何か変わったのか（【学びの深まり】）が自覚できるようにする。

■「PMI シート（思考シート）」や「ロイロノート（学習者用タブレット端末アプリ）」を使うことで、効果的に問題を出し合い焦点化する、個人の意見を表明し合うとともに比較し合い整理する、解決方法を集団として合意形成したり個人として意思決定できるようにする。【知識・技能】【思考・判断・表現】

（2）本時の展開

| 展開 (時間) | ○生徒の活動・問題意識 | ◎目指す生徒の姿 ■教師の支援と留意点 |
|------------|---|---|
| 導入 (5分) | ○前時のワークシート「イジリ見逃し〇」で出されたクラスのいいところ、問題点をロイロノートで振り返り、本時で話し合う内容を代議員が発表する。 | ■前時から本時までの間に、各班の班長と代議員での班長会を行う。班長会では前時でロイロノートの提出箱に出された個人の PMI シートを見ながら、多く出された話題に○をつけていく。どの内容を本時で話し合うか、話し合う際、班で合意形成する場面では単純な多数決にならないようにするなど以下のよう注意点を指導をする。 ■班長会でクラスの PMI シートをホワイトボードに作成する。 ■話し合う内容はひやかし、からかいといった内容が出されると予想される。 |

| | | |
|--|---|---|
| | ○代議員がまとめたホワイトボードを黒板に掲示する。 | ■教師用タブレット端末でTVに前回の様子を映し出す。 |
| ◎ □組でイジリ見逃し0を実現するためにどんなことをしていけばよいだろうか。 | | |
| 展開 (7分) | <p>○クラスからイジリを無くすためにどうすればよいか班ごとにロイロノート共有ノートでクラゲチャートを用いながらまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どういった取り組みができるか自由に意見を述べる。 ・「仲のいい人だったら別に・・・」という意見が出た場合には「クラスで」という視点で考えられるように班長が促す。 <p>○各班でイジリを無くすための具体的な取り組みをクラゲチャートにまとめ、代表者が提出箱に入れる。</p> | <p>■全班(7つ)分の共有ノートを教師が作成しておく。</p> <p>○「今の学級にとって」や「これから学級のためには」という視点から、自分と級友たちとの目標が明確になる。【主体的】</p> <p>■班長に事前に指導</p> <p>■班員全員が1回は意見を述べるように班長に事前に指導する。</p> |
| (6分) | ○提出箱を見ながら各班で出された意見をクラス全員で共有する。 | <p>■「注意する」など表面的な意見が出されることが予想されるため、その場合は教師が「本当にできる?」と促し、意見を再構築させて、一人一人が何を大切にしているかという視点で改めて考えさせる。</p> <p>■「見逃さない」といった意見があった場合には「対処する段階で、既に嫌な思いをしている人がいるかもしれないよ」と声をかけて予防法が考えられるように意見を再構築させる。</p> |
| (7分) | ○改めて各班でイジリを無くすためにどうすればいいか、各班の代表者がクラゲチャートにまとめ、提出箱に入れる。 | ■班長が困っている場面がないか、合意形成の場面を中心にしてすべての班を見回る。 |
| (3分) | ○提出箱を見ながら各班で出された意見をクラス全員で共有する。 | |
| (17分) | <p>○「これらのことまとめたスローガン」=「思いやり宣言」を各班で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出箱を見ながら各班で話し合い、クラゲチャートで元の案を考える。 <p>○クラス全員で「思いやり宣言」を考える。</p> | <p>○話し合いを通して、問題解決のための具体的な方策について互いの意見を多面的に吟味し、合意形成を図ることができる。【思考判断表現】</p> <p>■出てきた意見をまとめる。</p> |

| | | |
|------------------------|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・共通点や類似点はないか考える。 ・画面を見ながらクラス全員で発表を聞く。 ・代議員が調整しながら合意形成に向けて練り上げる。 <p>○合意形成した「思いやり宣言」を確認する。</p> | <p>■共有ノートの共有を解除する。</p> <p>■完成した思いやり宣言を入れたピラミッドチャートを全員に送る。</p> |
| ◎ 思いやり宣言をまとめとする | | |
| 終末 (5分) | <p>○ピラミッドチャート中段に自分ができることを書いて提出箱に入れる。</p> <p>○今日の話し合いを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで話し合うことで何が深まったのか、代議員が話をする。 ・アンケートで振り返りを行う。 | <p>○級友の考えを共有して、物事を決めるときの見方や考え方、方策が増える。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>■担任からの話し合いでよかったことなどを話す。</p> |

(3) 本時の評価基準

| | よりよい生活を築くための知識・技能 | 集団や社会形成者としての思考・判断・表現 | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 |
|---|-----------------------------|---|--|
| A | 新たな視点・観点を得たり、強化したりすることができる。 | 異なる意見への配慮をしながら、具体的な方策について合意形成をすることができる。 | 自分事としてとらえ、学級全体で協同して合意形成に向かおうとすることができる。 |
| B | 新たな視点・観点を得ることができる。 | 合意形成に向けた話し合いをすることができる。 | 協同して合意形成しようとする姿勢が見られる。 |

(4) 本時における評価方法の工夫

ア ロイロノートアンケートで評価に応じた質問事項を設定し、すぐに評価ができるようにする。すべての班の話し合いの様子を一人で見ることは困難であるため、アンケートに新たに分かったことや変化した考えを記述させたりすることで生徒一人一人を評価する。ただし、それだけでなく実際の話し合いの様子を見るのも1つの評価材料とする。

イ 思いやり宣言への合意形成の場面

代議員が進行をするため、特に各班の様子を机間巡回しながら評価したい。「自分の考えをもつ」→「発表する」→「意見を調整する」→「どうやって納得したか」の視点で見取るようにしたい。

事後指導について

- (1) 思いやり集会で発表した内容を実践し、広報する。（生徒によるP D C A）
- (2) 各学年の道徳教育部が、学年委員会担当者と協力しながら行う。
例：学年朝会で、その後のクラスの変化や様子、成果、具体的な取り組み等を発表する。
- (3) 各学年の学年だより担当者と協力して行う。
- (4) 「各クラスのPMI」と「思いやり宣言」は、各学級に掲示し、保護者に知らせる。